

# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝



## 「切れ目をつなぎ目にする引継ぎのポイント」

### 1 共通すること ⇨ 情報共有ツールの活用と顔の見える引継ぎを！

- ・引き続き関係機関と一貫した支援ができるように、「個別の教育支援計画」を活用して、関係機関との連携の方法、家庭や地域での様子、本人及び保護者の思い、有効だった支援や合理的配慮の内容、今後の課題等について確認する。
- ・児童生徒が進級・進学先で安心して生活できるように、「個別の指導計画」を活用して、園や学校での生活や学習の様子、好きなことや得意なこと、目標の達成状況、有効だった指導内容・方法、今後の課題等について確認する。
- ・引き継いだ情報を新年度の指導に活用できるように、園・校内コーディネーターが窓口となり、情報を収集・整理して、全職員が共有できる仕組みを整備する。
- ・保護者支援が必要なケースは、家庭・養育環境、経済状況等を共有し、必要に応じて入学や進級前に関係者とケース会議を開催して役割分担をする。

### 2 各移行期 ⇨ いつ・どこで・誰が・誰と・何を・どのように引き継ぐのか

#### □ 4歳児クラスから5歳児クラスへ 就学時健診前に動く！

- ・5歳児健診（親子相談）で発達のアンバランスや遅れを指摘された子ども、園で気になる子どもについては、教育委員会と連携して夏休み前に保護者面談、療育機関や小学校の見学、教育相談を計画して、適正就学につなげる。

#### □ 園から小学校・特別支援学校へ 健康面（服薬、アレルギー等）の情報も大事！

- ・教科学習がスタートするなど、環境が大きく変化するため、安心して学校生活を送れるように、保護者の心配事や思い等、聞き取ったことを伝える。
- ・健診をクリアしていても園で気になる子どもについては、予想される困り感を伝える。小学校では様子を見ながら、保護者の子ども理解を促し、検査等の次の一手を考える。

#### □ 小学校から中学校・特別支援学校へ 1年生は最初で最大の支援ができるチャンス！

- ・教科担任制になるため、校内で個別の支援や合理的配慮が継続できるように、具体的な学びにくさの状態や有効だった支援内容を伝える。
- ・対人関係や部活動で予想される支援や配慮事項を伝える。



#### □ 中学校から高等学校・特別支援学校へ 「なりたい自分」に近づくチャンス！

- ・合格後に、生徒指導主事や養護教諭等の連絡協議会で個別の支援が必要な生徒の情報や保護者の願いを伝える。（以前、ある高校の先生が、生徒の好きな食べ物等、どんな小さなことでも教えてもらえると指導に参考になるという話を聞いたことがある）
- ・将来の進路について、本人の希望や悩みについて聞き取ったことを伝える。

※受検に際して合理的配慮をお願いする場合は、相手校に「特別配慮申請書」を提出する。

引継ぎとは、子どもの夢を紡ぐために、人と人がつながり、情報を共有して連携することである。毎年のように支援する人は変わるので、より発展させるためには、関係者が連携して情報を伝え合う必要がある。関係機関との連携は、子どもの苦手さだけに注目するのではなく、長所や可能性を発見することに意味がある。子どものよいところを見付ける視点が共有されたとき、安心できる環境が整う。

## 失敗



## とれたて直送便



## 成功

### 「失敗から学べない理由」

特別な支援を要する子どもは、状況を把握して自分の気持ちをコントロールする力や客観的に自分の行動を振り返る力に弱さがあるため、失敗から学ぶことが苦手です。過去の経験を基に、行動を修正・調整できるように、よい行動を具体的に伝える、正しいやり方を示す、できないことは手伝う、ヘルプサインを身に付ける、必ず成功体験で終わることが大切です。